沖縄県のがん発生状況について

がん克服10カ年戦略の一環として位置づけされた沖縄県がん登録事業は昭和63年に開始され、はや11年が経過した。その間、がん死亡は増加の一途をたどり平成8年には、沖縄県における全死亡の29%を占め、今後も増加傾向にある。

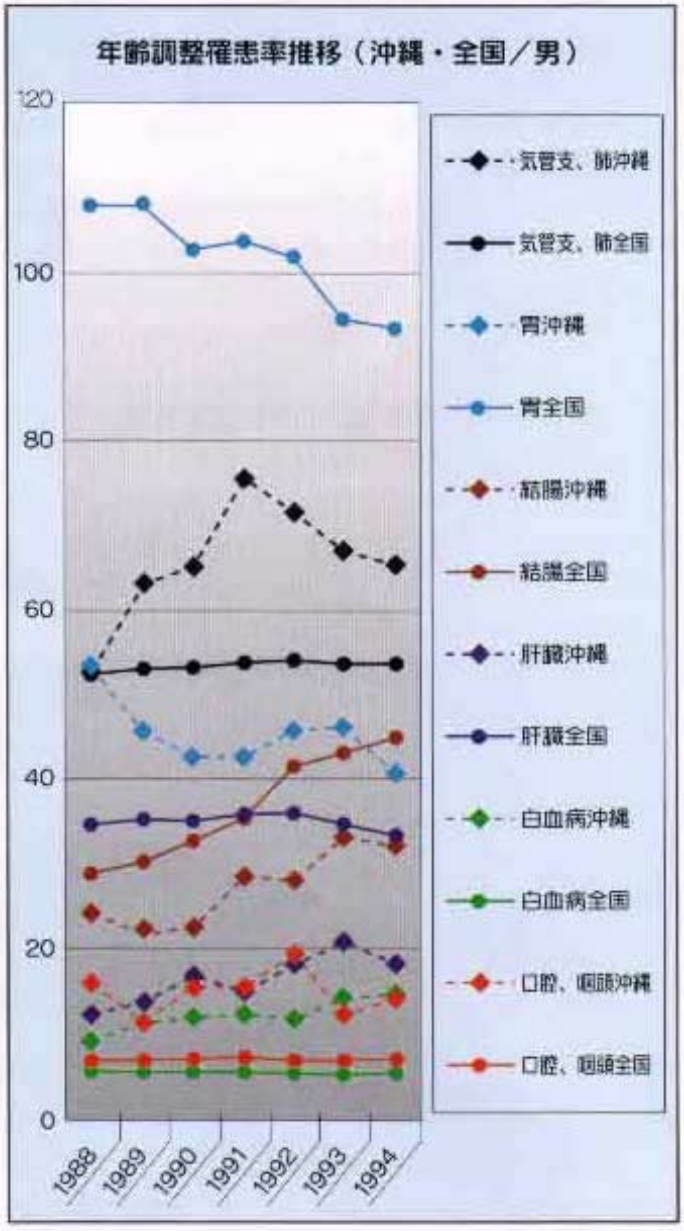
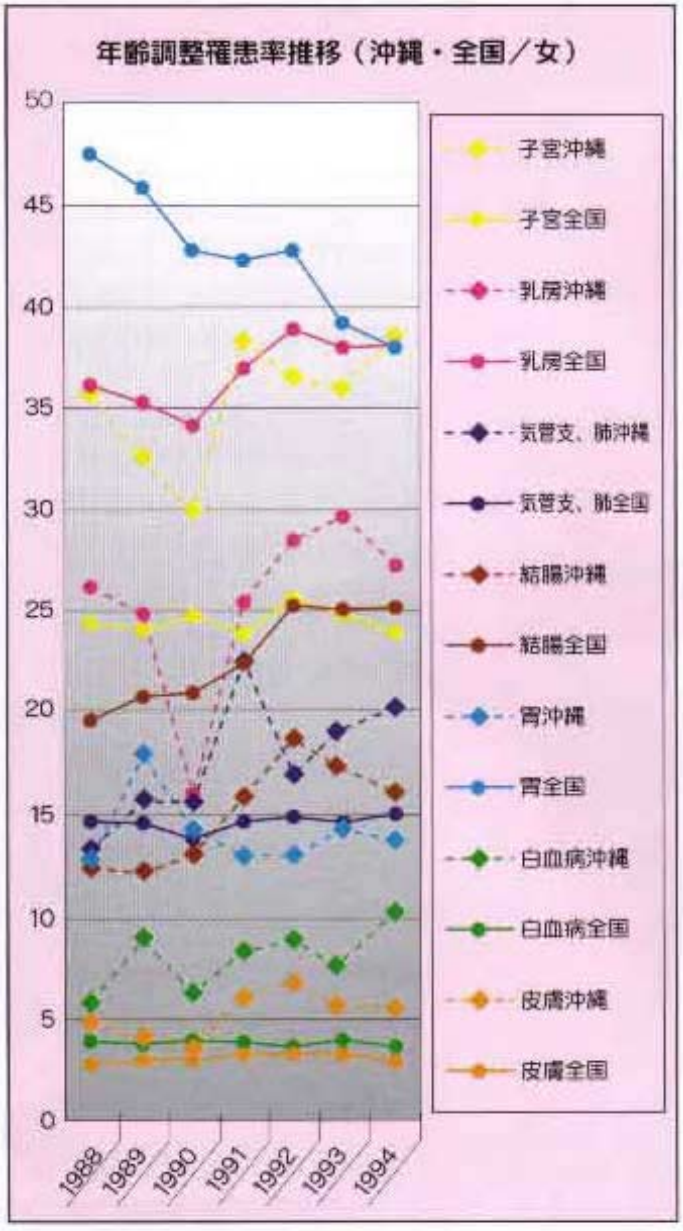
さて、がん登録事業をとおして明らかになった沖縄県のがん発生の特徴を幾つか紹介すると、はじめに部位別発生順位については、男性では気管支・肺、胃、結腸、肝臓、白血病、口腔・咽頭の順であり、女性では子宮、乳、気管支・肺、結腸、胃、白血病、皮膚の順となっている。これは、下図に示すように全国とは異なった様相を呈している。

次に、全がん罹患率が全国に比べて低いが、これは胃や結腸、直腸、肝臓のがん罹患率が全国の約40%～70%程度であることに起因するものであると考えられている。

しかし、全がん罹患率が低いにもかかわらず気管支・肺、白血病、子宮、男性の口腔・咽頭がんは全国より高い。

その他、男女比較では、甲状腺がん及び胆のう・胆管がんが、男性よりも女性に多い傾向があり、部位別がんの経年変化については、男性では結腸、白血病が増加傾向、逆に胃、食道は減少傾向にあり、女性では乳、白血病、肺は増加傾向、胃は減少傾向にある。

男性の肺がんについては、1991年以降は減少傾向にあり、今後の動向に注目したい。

以上のように、当事業により沖縄県のがん罹患状況が明らかにされつつあるが、今後は罹患状況の把握のみならず、治療後の生存率測定による、がん治療効果、がん検診事業の評価、厚生省コホート事業の支援によるがん危険因子の解析等沖縄県がん対策の基礎資料となる情報収集が望まれる。

(疫学情報室)